

自動化により30%の省人化に成功した新たな物流拠点 「ZOZOBASEつくば3」が、11月1日に本格稼働開始



ファッションEC「ZOZOTOWN」を運営する株式会社ZOZO（本社：千葉県千葉市 代表取締役社長兼CEO：澤田 宏太郎）は、2023年11月1日より、当社内最大規模の新たな物流拠点「ZOZOBASEつくば3」の本格稼働を開始しました。同拠点は、今後の商品取扱高の成長を見据え開設した5つ目の物流拠点で、商品の入荷・保管・出荷機能を有しています。2023年2月の竣工後、工事等を経て、8月より保管・出荷機能を順次稼働開始し、11月1日（水）に入荷を含む全機能が稼働開始しました。出荷能力は、最大で1時間あたり1万件を見込んでいます。

アイテムごとに形状が異なり、かつ小ロットで多品種という商品の特性がある当社では、物流拠点の自動化は難しいとされていましたが、ZOZOBASEつくば3では将来的な人口減少への対応として既存拠点の約4倍の設備投資を行い、自動化を推進しました。その結果、国内初導入の自動仕分けシステム「Pocket Sorter」をはじめとする機器を用いたオペレーションにより、既存拠点と比較して約30%の省人化に成功しました。

なお、延床面積や設備能力は当社内において最大規模で、本格稼働開始により、在庫保管可能点数はZOZOBASE5拠点全体で約1.3倍となる見込みです。

ZOZOBASEつくば3の詳細については、当社公式YouTubeチャンネルの動画「ミライをソウゾウする物流拠点 ZOZOBASEつくば3」をご覧ください。

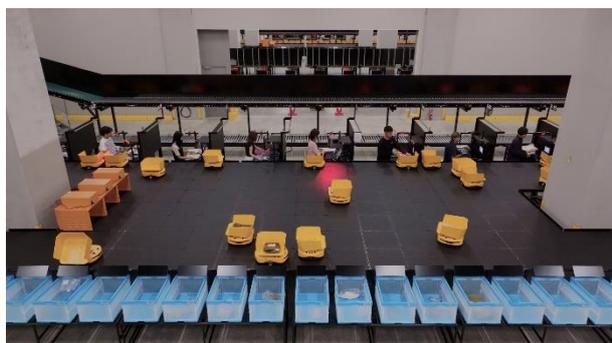
<https://youtu.be/iUfowhNvXoI>

当社は今後も、ZOZOBASEの安定稼働とさらなる効率化を追求し、企業理念「世界中をカッコよく、世界中に笑顔を。」の実現を目指してまいります。

<オペレーションの主な自動化ポイント>

■ 入荷した商品を種類別に仕分ける作業を「t-Sort」で自動化

ブランド様から入荷した商品を保管先ごとに仕分けを自動で実施。ZOZOBASEつくば3内に約500基設置しており、1時間で約32,000点の仕分け処理が可能。



■注文された商品の発送順立て管理を「システムストリーマー」で自動化

注文が入った商品の一時保管と、発送の優先度を踏まえた順立てを、システムの導入により自動化。約5,000コンテナ（85,000点）の商品の保管が可能で、1時間あたり約2,100コンテナ（35,000点）の商品の入出荷が可能。



■複数注文された商品を注文別に仕分ける作業を「Pocket Sorter」で自動化

レールから吊り下げられたポケットに、注文が入った商品を1点ずつランダムに投入すると、自動でお客様の注文ごとに商品の仕分けを実施。複数点注文の場合のみに使用。レールの総延長は約7kmあり、ポケットの総数は約26,000。1時間あたり15,000点の仕分けが可能。国内初導入。



<デザイン性が高く快適な、2つの休憩室>

1F（写真左）はデニム、5F（写真右）はプレイド（格子）をテーマに、スタッフが快適に過ごせるよう休憩室を完備。ZOZOUSEDの破棄商材を休憩室内のアート等に使用。



<ZOZOBASEつくば3概要>

- 所在地：茨城県つくば市御幸が丘34
- 延床面積：約137,000㎡（賃借エリア）
- 階数：地上5階建
- 着工：2021年9月
- 竣工：2023年2月
- 本格稼働：2023年11月
- 使用電力：東京電力エナジーパートナー株式会社グリーンベーシックプラン
- 電力種類：再生可能エネルギー由来の電力を100%導入（太陽光・バイオマス由来ほか）
- 休憩室：株式会社乃村工藝社（企画・デザイン・設計・施工）